

経営品質アセッサーフォーラム 年次総会

2006年6月20日

本日の議題

1. 2005年度活動実績
2. 2005年度活動総括
3. 2005年度会計報告
4. 2005年度監査報告
5. 2006年度活動計画
6. 会則変更案
7. 2006年度役員選任

1. 2005年度活動実績

研究会開催実績

第1回 2005年7月19日(火) 参加人数 50名
テーマ：「米国における経営品質向上への熱気を肌で感じよう：MB賞報告会」
講師： 有限会社イワオカ R&C 岩岡 保彦 氏
有限会社ヒューリッドコンサルティング 北垣 武久 氏

第2回 2005年9月20日(火) 参加人数 103名
テーマ：「コーポレート ゲノム(遺伝子)を知り企業の組織活力を高めよう」
講師：NRIラーニングネットワーク株式会社 上級コンサルタント 名倉広明 氏

第3回 2005年10月12日(水) 参加人数 60名
テーマ：「ダイアログを成功に導くスキル」
講師： 株式会社スマートワークス 代表取締役 千田 彰 氏

第4回 2005年11月16日(水) 参加人数 54名
テーマ：「組織力を高め、経営革新を起こしてきた事例」
講師： ホッカイ エムアイシー株式会社 代表取締役 阿部 忠 氏

第5回 2005年12月12日(月) 参加人数 95名
テーマ：「日産におけるV-upプログラム(日産が独自に開発した課題解決の仕組み)」
講師： 日産自動車株式会社 V-up推進・支援チーム 主管 五味 克太郎 氏

第6回 2006年1月24日(火) 参加人数 76名
テーマ：「成功企業の取材を通して学んだこと」
講師： 株式会社ブックス 代表取締役社長 西川 敬一 氏

第7回 2006年5月17日(水) 参加人数 50名
テーマ：「成功企業の事例から学ぶー セコム株式会社」
講師：セコム株式会社 顧問 加藤 善治郎 氏
(立教大学大学院21世紀社会デザイン研究科教授)

大学開催実績

第1回 2006年2月23日(木) 参加人数 74名
テーマ:「記憶力・発想力が驚くほど高まるマインドマップ・ノート術」
講師: ブザンジャパン社ディレクター ウィリアム・リード氏

第2回 2006年3月10日(金) (夜間大学) 参加人数 54名
テーマ:効果的な経営革新の為に「学習する組織の実践力を学ぶ」 第1日目
講師:アセッサ・フォーラム 理事有志グループ

第3回 2006年4月17日(月) (夜間大学) 参加人数 50名
テーマ:効果的な経営革新の為に「学習する組織の実践力を学ぶ」 第2日目
講師:アセッサ・フォーラム 理事有志グループ

大阪JQAA大学開催 6月15日 参加人員 約30名
テーマ:効果的な経営革新の為に「学習する組織の実践力を学ぶ」

交流活動実績

JQAA通信

経営品質協議会認定セルフアセッサー全員へ研究会、大学、マガジン等の案内を毎月発信。

JQAAホームページ (<http://www.jqac.com/jqaa/>)

トップページ関連では、必要の都度会則、役員名簿、年次総会案内、理事公募案内などを更新。更に、JQAA通信の発行に伴い、JQAA研究会やJQAA大学の開催案内、開催実績の紹介、マガジンの内容紹介及びJQAA通信のバックナンバーを毎月更新。

マガジン発行実績

- 第8号 Winter 2005 2005年12月発行
特集「コミュニケーションと組織の能力」ほか、全68ページ
- 第9号 Summer 2006 2006年6月発行
特集「組織革新の実践」ほか、全64ページ

2. 2005年度活動総括

研究会活動総括

今年度の研究会は、各回とも参加人数が比較的多く(最高103名)、アセッサーのニーズにあった内容を企画／コーディネート出来たと推察される

今年度から実施したアンケートの結果を見ると、概ね参加者の期待に応えるにふさわしい内容／講師であったと言える。また、今後の研究会についての提言／アドバイスなど、参加者の積極的な姿勢にも恵まれた。来年度は、理事会での検討に止まらず、アセッサーの皆様幅広く研究会内容および講師の選定について呼びかけることも一案と考える。

アンケートからは、『成功企業の事例から学びたい』というニーズが比較的多いことが分かった。そのニーズに対応すべく、ホッカイエムアイシー株式会社様、日産自動車株式会社様、セコム株式会社様から講師をお招きした。更に、成功企業事例をより深く学ぶ参加型の分科会が設立され、活発な活動が始まったことは特筆すべきである。今後何らかの形で活動を報告する機会を設けたい。

参加者の中には所属組織の社員(必ずしもアセッサーでない)と共に参加することを希望される方が毎回いた。アセッサーの同志を獲得する良いきっかけになると考えられるので、今後そのようなニーズにも積極的に応えて行きたい。

今年度は、総評会館での開催を増やした。駅からのアクセス面や会場内の設備面で好評だった。来年度も、アンケートの実施、参加者の声などを基に、よりアセッサーの皆様にも有益な情報提供の場を設けて行きたい。

大学活動総括

今年から、始めて夜間大学を開催した。「学習する組織:5つの能力」については、昨年度同じテーマで2回開催したが、今回も多くの参加者があり、このテーマに対するアセッサーの関心が高いことを伺わせた。

夜間大学の開催については、多くの賛成の声が寄せられた。

今後は、これらテーマの掘り下げや、アセッサーが自組織の改革を進める時の「自組織の状況に応じたリーダーシップの発揮」などに着目した演習、ロールプレイなど、経験、行動をともなった学習の場の提供を計画している。

交流活動総括

メーリングリスト開設

実践研究会、交流活動、マガジン公募等のために、アセッサーが投稿できる環境作りを行った。

マガジン発行活動総括

■研究会／大学との連動により、重要なテーマについて深掘りが出来るようにした。

■広く読者からの寄稿をお願いし、多くの皆様のご協力を頂いた。

■JQAAの方針／考え方を発信することで、アセッサーに対するメッセージ性をより高めて行くこととした。

□アセッサーマガジン今後の課題

・書き手、投稿者の多様化。

・同質化の回避(異なる考え方を対比させ、気付きを促すような誌面作り)。

・損益分岐点(1000冊)を超える読者数の拡大／リピーターの確保。

アンケート調査の総括

■アセッサーの声を聴く

JQAA活動に関するアセッサーの声を、各理事が直接身近のアセッサーにインタビュー。その結果、JQAAの知名度が非常に低いことが判明。

⇒知名度向上の為の諸施策(交流活動、研究活動等、全般の改善を図る)

■アンケートによる会員の声収集

研究会、大学を開催する毎にアンケートを実施(合計9回)し、講義内容、運営方法、プログラムに対する希望、参加者の立場(経営者、改革推進者、改革実行者、コンサルタント等)について回答頂いた。これらを集計した結果、

- ・講義内容 ⇒ 満足度75.8～93.2(平均87.1)と概ね良好
- ・運営方法 ⇒ 特に総評会館に対する満足度が高く、こちらも概ね良好
- ・参加者の立場 ⇒ 改革実行者よりも支援者／推進者の割合が高い
- ・プログラムに対する希望 ⇒ 代表的なものを下記。
 - －成功企業の事例、受賞企業の改革事例
 - －改革担当者の苦労話、優秀企業のアセッサーの苦労話
 - －社風、風土改革の実例
 - －改革を実践して顕著な効果を出した企業の実例
 - －実践経験不足を補えるような学習
 - －その他多くの要望

3. 2005年度会計報告

2005年度 経営品質アセッサーの会 会計報告書		
平成17年6月1日から平成18年5月31日まで		
		(単位:円)
1. 収入の部		
①アセッサーマガジン代		706,425
②研究会・参加費(総会含め計7回)		1,531,000
③JQAA大学・参加費(計3回)		856,000
④雑収入(受け取り利息他)		17,111
計		3,110,536
2. 支出の部		
①アセッサーマガジン作成費(原稿料含む)		241,560
②アセッサーマガジン印刷費		900,780
③会場利用料(月例会・大学・総会・理事会・総会懇親費など)		1,076,660
④講師謝礼(月例会・大学・総会など)		320,000
⑤振込手数料		9,660
⑥その他雑費(コピー代・送料・事務用品、役員経費)		376,713
計		2,925,373
3. 前期からの繰越金		1,445,724
4. 残高		1,630,887

4. 2005年度監查報告

監査報告書

2006年6月20日

経営品質アセッサーフォーラム
理事長 土屋 元彦 様

監 事

伊藤 良之

橋本 文隆



2005年度会計監査

当監事は、経営品質アセッサーフォーラムの規約にもとづき、2005年度（期間2005年6月1日 — 2006年5月31日）における、同フォーラム活動に関わる会計報告書を監査した結果、会計処理は公正と認められる手続きによって行われている事を確認いたしましたので、その旨、監査報告いたします。

以 上

5. 2006年度活動計画

定例活動計画

1. 研究活動を再編し、実践力の向上を柱とした活動とする
 - ・研究会及び大学を統合し、アセッサーによる経営革新のための考え方・手法の習得と実践力の向上を目指す。
2. 実践分科会活動の本格化
 - ・成功企業事例を相互研鑽により深く学ぶ目的で、昨年度は参加型活動を試行的に実施。
 - ・経営改革の実践力向上に必要なノウハウ蓄積や克服課題を明確にすると同時に実践プログラムの具体的提供を目指すため、今年度は本格的活動に取り組む。
3. 組織内経営改革の実践を担うアセッサーの参加促進
 - ・会員ニーズにマッチした企画(改革事例研究会)と利便性重視(原則夜間開催、参加し易い会場の選定等)により、アセッサーの積極的な参加促進を図り、固定ファン作りを目指す。
4. 経営改革の実践を担うアセッサーの研鑽・交流の場作りを目指す
 - ・意識的に相互交流の場作りを図る等、その他の活動も継続実施。

6. 会則変更の件

「経営品質アセッサーフォーラム(JQAA)」会則 変更分 抜粋

(役員任期)

第12条 役員任期は2年とし、再任を妨げない。また、任期は連続2期を越えることはできない。補欠によって就任した役員任期は、前任者の任期の残存期間とする。

理事を連続2期終了後監事に選任された場合は、1年の任期で認めることができる。

<変更の理由>

監事の業務役割から、専門性とフォーラム活動への理解を必要とし、人材選考の幅を拡げるため

7. 2006年度 役員選任

役員退任・新任案

退任する理事

市川 庄司	副理事長
大林 純子	マガジン
岩田 修巳	大学
小川 佳子	研究

退任する監事

橋本 文隆

新理事候補

下津 可知子
高崎 洋介
永井 洋子
中山 博

新監事候補

市川 庄司

2006年度新体制案

理事長	土屋元彦
副理事長	真下信雄、 渡辺和眞
理事(研究)	○門田由貴子、赤津康夫、 下津可知子 高崎洋介、永井洋子
(交流)	○内藤貞人、澤田美樹子
(出版)	○中西俊秀、田丸重男、 中山博
(運営・会計)	矢野敬人
(運営・総務)	中井克彦
監事	伊藤良之、 市川庄司
編集部会	黒瀬 晋 大林純子

○印:活動責任者

赤字:新任

以上